

6 雪を活かしたまちづくり



6-1 産業及び観光の振興

基

(1) 雪氷冷熱エネルギーを利用した新しい産業の振興

【現状と課題】

本町では、平成8年度に雪室施設を整備し、日本酒や農林産物の貯蔵施設として活用を図ってきた。

他市町村の先進的な取り組みとしては、新潟県上越市安塚地区において雪氷冷熱エネルギーを利用した施設等を整備し、地域の活性化や産業の振興に繋げている事例もある。このように雪は厄介者という発想から、地域の資源という考えのもと、雪氷冷熱エネルギーの活用に向けた調査、研究を進め、新たな産業の振興に結び付けていく必要がある。

また、平成20年度にインターネットなどのICT(情報通信技術)を活用し、地域づくりや新たに会社を設立しようとしている方を支援する施設としてテレワークセンターを開設し、雪国でもICTの技術を活用し季節に関係なく仕事ができるテレワークを推進してきた。令和3年度には、「西会津町デジタル戦略」を策定し、今後もICTを活用した産業振興を進めていく。

【課題を解決するための実施計画】

○雪国を利用した遊休施設等の活用を調査・研究

豪雪地帯の気候を活用した遊休施設の利活用について、調査・研究を行い、新たな産業の振興を図る。

○雪冷房システムを活用したデータセンターの誘致の調査・研究

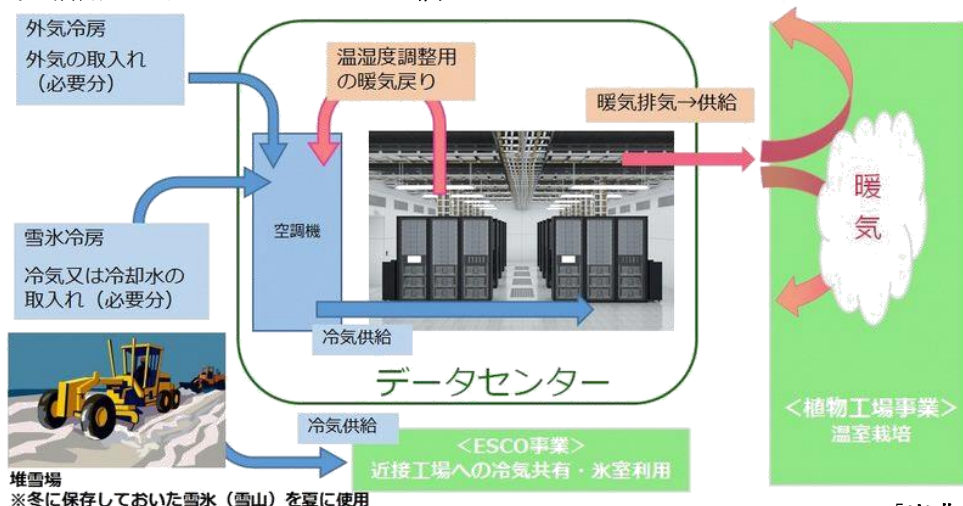
雪による冷房システムを活用した、データセンターの誘致について調査・研究を行う。

○テレワークの推進

雪国でもICTの技術を活用して仕事ができるテレワークを推進する。

【参考例】

<雪氷と外気を活用したデータセンターの空調システム>



[出典：NCRI]

(2) 雪国の特性を活かした農林業の振興

【現状と課題】

本町では、冬期間、若手農業後継者による雪下キャベツなどの高付加価値野菜栽培や耐雪型パイプハウスの導入により野菜栽培が可能となっている。一方、林業においてもパイプハウスを活用した菌床きのこ栽培が行われており、生産者、生産量とも増加傾向にある。

しかし、耐雪型パイプハウスは除雪作業が必要であり、雪害による倒壊などを未然に防止する対策が必要である。また、菌床きのこ栽培に必要なオガ粉は町外産を用いている状況であり、本町の豊富な森林資源の有効活用が求められている。

このほか本町では、雪室が整備されており夏でも雪の冷気を活かした貯蔵が可能となっている。

【課題を解決するための実施計画】

○雪を利用した高付加価値型農業の振興

雪下野菜栽培や雪室施設を使った野菜の貯蔵など、雪の利用で高付加価値化した農林産物の振興を図る。

○雪室施設の活用

雪室は一般の冷蔵庫より湿度が高いのが特徴で、出荷時期を遅らせ、米、そば等の鮮度を維持できる他、日本酒等はまろやかな味になるなどの効果があると言われており、この特長を活かして、ミネラル野菜をはじめとする農林産物等の付加価値を高めて販売促進につなげる。

(3) 雪国の特性を活かした観光の振興

【現状と課題】

本町では、かつては冬期間の観光はオフシーズンであったが、雪に親しむイベントとして雪国まつりを開催し、多くの来場者でにぎわっている。また、雪国の暮らしや食、伝統的な行事等を素材としたグリーン・ツーリズムなどにより近年は友好都市や首都圏からの来町者も増えつつある。

しかし、大山祇神社、鳥追観音、道の駅よりっせなどの観光地では、冬期間の観光客数は大幅に減少している状態で、冬期間の誘客に向けた取組みが期待されている。

【課題を解決するための実施計画】

○冬期のグリーン・ツーリズム活動の充実

雪国の暮らしや食、伝統行事などを活かしたグリーン・ツーリズム活動の充実を図る。

○農家民泊の推進

雪国の暮らしや食を体験できる農家民泊の推進を図る。

(4) 雪と親しむイベント、スポーツ等の推進

【現状と課題】

冬期間、積雪のため屋外でのスポーツやレクリエーションが限られている本町では、雪国まつりを毎年開催し、雪に親しむイベントとして地域の活性化にも結びつけているほか、町内の自治区においても集落単位で雪灯籠などを使ったイベントを開催している。またスポーツ活動としては、さゆり体育館や屋内プール、ゲートボール場が活用されているが、夏季と比べると運動不足になりがちである。

【課題を解決するための実施計画】

○雪を活用したイベントの開催

雪に親しむイベントとして、西会津雪国まつりを継続し、魅力あるイベント内容の充実を図るとともに、冬のスポーツ等の新規イベントなどを調査・検討する。

また、夏に雪を活用したイベント等をできないか調査・検討する。

○地域におけるイベント情報の発信

自治区等で開催している冬期間のイベントについて、ケーブルテレビや広報紙、SNS等を活用した情報発信を行う。



[西会津雪国まつり]

(5) 雪国の伝統文化の伝承

【現状と課題】

町民一人ひとりが雪国の暮らしに理解を深め、雪に親しみ、雪と調和した暮らしを創造していくことは、豊かで潤いある雪国での生活をしていくうえでは極めて重要である。特に雪国特有の伝統文化を次の世代へ引き継いでいく必要がある。

【課題を解決するための実施計画】

○雪国特有の民俗資料の伝承

雪国特有の生活用具、民俗資料、民話、慣習、伝統民俗芸能等の収集、記録、保存及びその活用を進める。

○冬の伝統行事の継承

冬の伝統的な行事（歳ノ神やだんごさし）などを活用したイベントの開催や、伝統行事の由来や意味をまとめた冊子を発行する。



[歳ノ神]

(6) 都市との交流

【現状と課題】

本町では、友好交流都市との交流や移住・定住を促進する取組みを実施してきた。その体験の一つとして、除雪作業などの雪国を体験する機会も提供している。雪国体験を通して、地域との交流、さらに西会津への理解を深めるきっかけづくりとしている。今後、受入体制の整備や体験作業の安全確保に努めていく必要がある。

しかし、除雪作業に不慣れな方もおり、除雪作業に係る安全性の確保が課題となっている。

【課題を解決するための実施計画】

○雪国体験交流の実施

雪国まつりへの参加や田舎暮らし体験ツアーなどによる除雪体験、雪国特有の凍み雪渡りやダイヤモンドダストなどの自然現象体験、古くから伝わる「かんじき」作りや「わら細工」など、雪国の自然や文化に触れる体験型交流を促進するとともに、雪国の暮らしを体験できる交流を通じて、西会津への理解を深める。また、ジョセササイズを用いた、除雪作業の楽しさと作業事故防止の普及に努める。



■町民の役割（自助）

○雪国まつりや雪国体験交流などのイベントに積極的に参加する。

■地域の役割（共助）

○地域の冬の伝統的な行事（歳ノ神やだんごさし）や暮らし、食を通し、都市との交流を受け入れる。

■行政の役割（公助）

○雪や自然エネルギーを活用した産業振興について調査、研究を進める。

○雪室を有効に活用し農林業の振興を図る。

○雪国の暮らし、食、伝統行事を活かした観光の振興を図る。

○雪国まつりなどのイベントを継続して行う。

(1) 雪国の健康づくり、健康管理

【現状と課題】

本町では、「からだ」「こころ」「つながり」の3つの“健康”による『さすけねえわ（輪）』の健康づくりを推進している。健康づくりを通して一人ひとりの幸せな暮らしの実現に向け、町民、地域、町が一丸となって健康づくりに取り組んでいる。

冬期間は積雪のため屋外で運動する機会が少なくなり、冬期間の健康づくりや健康管理は大変重要な課題となっている。特に高齢者は家に閉じこもりがちになることから、日頃からの運動などが重要となっている。

【課題を解決するための実施計画】

○冬期間におけるスポーツの振興

冬期間は雪の影響もあり、運動不足になりがちのため、屋内で運動ができる施設の整備や活用、冬期間でも取り組みやすいニュースポーツ（カローリング、輪投げ等）の振興を図り、運動に親しみやすい環境に努める。

○運動機会の提供

町民の運動に親しむ機会を増やすため、ラジオ体操、ジョセササイズや健康ポイント事業などの推進を図る。

○食生活の改善

漬け物や保存食等、塩分の多い食べ物の摂取が多かった食生活の改善を進めてきた。今後も、適塩、バランス食を普及していく。



[カローリング大会]



[ラジオ体操講習会]

(2) 伝統的な雪国の「衣」「食」「住」の継承、振興

【現状と課題】

雪国には、これまで冬の生活を快適に過ごせる知恵と工夫により、「衣」「食」「住」各分野にわたって雪国らしい生活スタイルが受け継がれてきた。近年は経済的な豊かさや都市化の流れにより、雪国特有の生活スタイルが失われつつあるが、これまで培ってきた伝統的な雪国の「衣」「食」「住」を発掘、継承することにより、雪国「にしあいつ」の魅力を再発見することができる。

【課題を解決するための実施計画】

○伝統衣装の伝承

綿入れ^{はんてん}や^{みの}蓑、深靴など、雪国特有の衣類や履物等を記録に残していく。

○食文化の伝承

冬期間の保存食（大豆、干しいたけ、棒たら、車麩、干し柿など）を伝承する。

風土に根付いた料理、伝統料理を伝承するための講習会を開催する。



[西会津町に伝わる郷土料理の作り方をまとめた『西会津の郷土料理』]

(3) 雪国教育の推進

【現状と課題】

雪国には雪国特有の生活スタイルがあり、それが雪国の伝統的文化である。

雪は、単に厄介者だけでなく雪があることで自然豊かな風土があり、また資源であることを、子どもたちに伝えて行く必要がある。

雪国だからこそ経験できることを、後世へ伝えていく必要がある。

【課題を解決するための実施計画】

○雪に関する学習機会の提供

雪囲い作業や除雪作業、雪国ならではの知恵や工夫など、様々な雪国の生活について学ぶ機会を提供する。

○雪氷冷熱エネルギーの活用

公共施設において雪氷冷熱エネルギーを活用した設備を導入し、太陽光発電などと共に自然エネルギー循環システムを体験できる環境を整備する。

■町民の役割（自助）

○冬期間の運動や健康ポイント事業など、積極的に取り組む。

○伝統料理を次の世代に受け継いでいく。

■地域の役割（共助）

○冬の伝統的な行事（歳ノ神やだんごさし）を地域で子どもたちに継承していく。

■行政の役割（公助）

○冬期間の運動に親しみやすい環境に努める。

○雪に関する学習機会の提供を行う。